

財政健全化計画の進捗状況総括表（平成 22 年度決算）

「財政健全化計画」は、本市のまちづくりに対応できる財政体質を確立するため、「歳入の確保」及び「歳出の抑制」について、それぞれ目標を設定し、その達成に向けて取り組むべき課題を定めたものである。計画期間は平成 20 年度から平成 23 年度までの 4 年間で、年度ごとにそれぞれの課題の進捗を公表することとしている。

主な会計の進捗状況

(ア) 一般会計

職員人件費や特別会計への繰出金がほぼ目標を上回って削減されたものの、市税収入は景気低迷により減収となったため目標未達成となった。また、使用料・手数料の滞納整理、経常経費の総額抑制などについても未達成であったことから、今後、市税や使用料・手数料などの徴収率向上を図るとともに、経常経費の抑制に努め、財政の健全化を推進する。

(イ) 国民健康保険事業特別会計

一般会計からの赤字補てんのための基準外繰出は、税率の見直しや医療制度改正の影響等により目標を上回って削減された。しかし、被保険者の所得減少で国保税収が落ち込むなか、平成 22 年 4 月の診療報酬の改定により医療費が大幅に増加したため、一旦は解消された一般会計からの基準外繰出を再び受ける状況となった。今後も、財政赤字は増加する見込みであることから、安定的な財政運営のため、健診事業や保健指導等医療費削減事業の推進、収納対策の充実、税率の見直しによる負担の適正化などにより財政の健全化を推進する。

(ウ) 下水道事業特別会計

公債費の削減は、過去に借り入れた高金利の市債を繰上償還し、より低利な市債に借換を行ったことにより削減目標を達成した。また、建設改良費の一部に対する一般会計からの基準外繰出は、事業費の減により目標以上の削減となった。しかしながら、下水道使用料の滞納額の削減については、東日本大震災の影響もあって達成することができなかったことから、納付指導の強化などにより財政の健全化を推進する。

各課題の進捗状況

(ア) 歳入の確保

① 税基盤の充実（増加指標：「+」が達成）

（単位：百万円）

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
市税収入 の増収を図る	未達成	14,764	13,884	△880	厳しい経済状況により市民税が落ち込んだことから、目標額に比べ880百万円の減収となった。督促状や催告書の送付、納税指導、滞納処分などを行い、滞納額の削減に努める。

② 使用料・手数料等の滞納整理と徴収率向上（削減指標：「△」が達成）

（単位：百万円）

項目	達成状況	目標額 (滞納調定額)	実績額 (滞納調定額)	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
保育費扶養者負担金の滞納額 を削減する	未達成	10.0	18.1	+8.1	支払いの滞りや完納誓約どおりに支払われない例が多くあったため、目標額に比べ8.1百万円削減が進まなかった。納付指導の強化などにより滞納額の削減に努める。
市営住宅使用料の滞納額 を削減する	未達成	36.6	50.3	+13.7	臨戸徴収の実施や裁判所への支払督促申立などを行っているが、経済状況により分割支払いになったことなどから、目標額に比べ13.7百万円削減が進まなかった。督促状・催告書の送付や、悪質滞納者への明け渡し請求・裁判所への支払督促申立などにより滞納額の削減に努める。
し尿汲取手数料の滞納額 を削減する	達成	1.1	0.9	△0.2	汲取停止や戸別訪問による徴収強化などにより、目標額に比べ0.2百万円削減が進んだ。
市有地貸付料の滞納額 を削減する	未達成	4.1	7.6	+3.5	経済的な理由による未納や納付遅延があったことなどから、目標額に比べ3.5百万円削減が進まなかった。督促・催告等を行うとともに、法的手続きを含めた滞納整理により、滞納額の削減に努める。
住宅新築資金等貸付金の滞納額 を削減する	未達成	78.0	86.2	+8.2	借受人の高齢化などにより徴収が滞ったことから、目標額に比べ8.2百万円減が進まなかった。継続的な戸別訪問や分割納付の指導などにより滞納額の削減に努める。
奨学資金貸付金の滞納額 を削減する	未達成	15.1	23.3	+8.2	未就職や家計急変、非正規雇用等の低所得者が増えたことなどにより、目標額に比べ8.2百万円削減が進まなかった。奨学生の実情に合わせ、返還計画の見直しを行うなど、収納の強化に努める。

項目	達成状況	目標額 (滞納調定額)	実績額 (滞納調定額)	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
<u>温泉使用料の滞納額</u> を削減する	未達成	8.8	10.3	+1.5	厳しい経済状況により、新たな滞納世帯の発生に加え、大口利用者である旅館の徴収が滞ったことから、目標額に比べ1.5百万円削減が進まなかった。納付指導や給湯停止などにより滞納額の削減に努める。
<u>下水道使用料の滞納額</u> を削減する	未達成	312.2	367.5	+55.3	厳しい経済状況により、大口利用者の分納誓約額の減額などがあったことから、目標額に比べ55.3百万円削減が進まなかった。警告書の送付や戸別訪問の強化などを行い、滞納額の削減に努める。

③ 未利用財産の売却処分（増加指標：「+」が達成） (単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
<u>市有地の売却</u> を進める (H20からの累計額)	達成	152	177	+25	継続的に公売物件の売却などを行ったことにより、目標額（累計）を25百万円上回った。

④ 国民健康保険税の基盤強化（増加指標：「+」が達成） (単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
<u>国民健康保険税収入</u> の増収を図る	未達成	3,746	2,497	△1,249	医療制度改正に伴い、後期高齢者医療制度へ移行した75歳以上の被保険者分減収や、景気の低迷によるリストラや派遣切りによる収入の減少、離職者への軽減措置の導入による算定基礎所得の減などから、目標額に比べ1,249百万円減収となった。督促状や催告書の送付、納税指導などを行い、歳入の更なる確保に努める。

⑤ 下水道使用料の見直し（増加指標：「+」が達成） (単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
<u>下水道使用料収入</u> の増収を図る	未達成	1,524	1,291	△233	平成21年度使用料改定の上げ幅を計画策定時より緩和したことや、景気低迷による観光客数の減少や一般家庭の節水意識の向上などによる有収水量の減少などから、目標額に比べ233百万円減収となった。納付指導の強化や未接続世帯への接続斡旋などで普及を促進し、使用料の増収を図る。

(イ) 歳出の抑制

① 職員人件費の抑制（削減指標：「△」が達成）

(単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
職員人件費を削減する	達成	8,045	7,798	△247	定員適正化計画に沿って順調に職員数削減が進んだため、目標額に比べ247百万円削減が進んだ。

② 公債費負担の軽減（削減指標：「△」が達成）

(単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
普通会計の公債費を削減する (H20からの累計額)	達成	△56	△63	△7	借換債の借入利率を当初2.0%と見込んでいたが、0.5%前後で借り入れることができたため、目標額（累計）に比べ7百万円削減が進んだ。
下水道会計の公債費を削減する (H20からの累計額)	達成	△198	△226	△28	過去に借り入れた高金利の市債を繰上償還し、低金利の市債に借り換えたため、目標額（累計）に比べ28百万円削減が進んだ。

③ 経常経費の総額抑制（削減指標：「△」が達成）

(単位：百万円)

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
物件費を削減する	未達成	4,567	5,768	+1,201	経常的な経費については減少しているものの、物件費については追加経済対策として国庫補助を受けて実施した地デジ対応テレビ、消防用ホース等の整備や、指定管理施設の増加、クリーンセンター運営費の増加などがあったことから、目標額を1,201百万円上回る結果となった。経常的な経費については、今後も総額抑制を継続していく。

④ 補助金の整理合理化（削減指標：「△」が達成）

（単位：百万円）

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
補助金を削減する	未達成	806	900	+94	自治公民館建設事業費補助金（補助限度額の引き上げなど）や、分譲地公共施設整備事業補助金、在宅介護オアシス支援事業運営費補助金（施設数の増）などが増額となったことから、目標額を94百万円上回る結果となったが、引き続き、補助金の整理合理化方針を堅持していく。

⑤ 特別会計繰出金の抑制（削減指標：「△」が達成）

（単位：百万円）

項目	達成状況	目標額	実績額	目標額との差	目標額と実績額に差が出た理由等
国民健康保険事業の基準外繰出を削減する	達成	439	226	△213	税率の見直しや医療制度改正による前期高齢者の医療費に係る交付金の増などにより、目標額に比べ213百万円削減が進んだ。
下水道事業の基準外繰出を削減する	達成	136	79	△57	建設改良費の一部に対する一般会計からの基準外繰出は、事業費の減により、目標額に比べ57百万円削減が進んだ。
自家用有償バス事業の基準外繰出を削減する	未達成	16	24	+8	足尾 JR 日光駅線・唐風呂線の運行形態を見直した結果、バス利用者数・使用料ともに増となったが、基準外繰入が不要となるまでには至らず、目標額を8百万円上回る結果となった。利用者の利便に努め、自主財源であるバス使用料の増額を図っていく。
公設地方卸売市場事業の基準外繰出を削減する	達成	10	8	△2	市場事務を民間へ委託したことにより事務費や人件費が削減できたことから、目標額に比べ2百万円削減が進んだ。
温泉事業の基準外繰出を削減する	未達成	18	43	+25	厳しい経済状況により、一般家庭及び大口のホテルの給湯廃止があり、温泉使用料収入が計画策定時見込みを下回ったため、目標額に比べ25百万円削減が進まなかった。現年度の収納率の向上、滞納整理を行い、繰出金の削減を図る。